

産業構造審議会 製造産業分科会 車両競技小委員会（第 11 回）

議事要旨

日時：平成 30 年 6 月 6 日（水曜日）10 時 00 分～12 時 00 分

場所：経済産業省本館 2 階西 3 共用会議室

出席者

久保委員長、大西委員、岡委員、絹代委員、古野委員、牧田委員、三井委員、三屋委員、村山委員、山本委員、笹部オブザーバー、佐久間オブザーバー、宮下オブザーバー、高崎オブザーバー、上田オブザーバー、羽柴オブザーバー、有安オブザーバー、渡辺オブザーバー

議題

1. 制度設計に向けた論点整理について

議事概要

久保委員長により、議題に沿って進行。

議事に先立ち、事務局から、会議及び配付資料を公開とすることを説明し各委員了承。事務局からの説明の後、民間事業者、JKA、全輪協及び選手会からの発言があった。その後、各委員等から意見が述べられた。主な意見と質疑応答は以下のとおり。

- （意思決定に関し）当社が貢献できるところに参加できればと考える。（財源負担に関し）これまでも JKA と組んで広報の費用負担を行ってきた。今後も是々非々で判断し、売上に貢献していきたい。
- 当社の有するデータを提供して、競輪がより良い商品になっていけばいい。広報・マーケティングには費用面でも協力しているが、今後も、競輪の認知度が良くなっていくものに、是々非々で協力したい。
- 現在、インターネット投票において多くのファンを取り込めたと自負している。多くのお客様は重勝式のみを買うファンであり、これらは新しいファンである。広報は、ユーチューブの動画制作など、企画段階から参画したい。
- 競輪が持つ、強み、弱み、機会、脅威といったことを分析（SWOT 分析）する必要がある。今後の財政負担は、その負担が収益増加につながるのであれば可能である。民間が関与すべき領域の明確化が必要ではないか。
- パートナーである施行者と場外車券売場のオーナーと意識を合わせて、映像機器やロイヤルルームなどへの投資も行っているが、最終的な決定権は、施行者、オーナーとなっている。施行者、オーナーと考えがマッチした場合は投資も可能と考えている。
- サイクルスポーツと競輪の融合を目指すべきではないか。サイクリストを増やすことが競輪の活性化にも繋がるはず。競輪場はサイクルスポーツの普及拠点としていくべきで

あり、そのための発言機会をもらえるのであれば、施行者と一緒に提案したい。

- 前回の小委員会以降、JKAの組織改革等を進めているところ。民間事業者とのコンタクトも開始した。また、広報アドバイザーの選定も進めている。危機感というより希望に満ちた精神をもって、ブレイク・ザ・ボーダーで引き続き進めていきたい。
- 民間事業者の建設的な意見に感謝。どう役立てていくのかを今後検討していくが、例えば、公募の形で提案してもらいそれを取り入れるということも考えられる。先導的施行者選定の評価軸については、複数の評価軸もあり得るし、施行者の意思を尊重すべき。施行者の意見としては、日程調整権は最終的には施行者に決定権があること、先導的施行者の選定基準は施行者の納得感のあるものにすべく施行者ヒアリングも行うべきであること、一般施行者がおいてけぼりにならないようにすること等があった。また、51億円は法改正が前提であるので、どういうメニューなら使えるのか、改正案が確定次第示して頂きたい。
- 選手の肖像権については、個人の権利でもあり、問題点はどこにあるのか、選手を表に出せるようにするにはどうすべきか。例えば、レース直前の出演などデメリットになりかねないものもある。そのような点も踏まえ、よりよい形はどのようなものなのか、関係団体と検討したい。
- 競輪最高会議の位置づけが不明確ではないか。競輪全体を語る者は誰なのか。また、モニタリングの対象についても、意思決定なのか、執行なのかの整理も必要。中期基本方針に基づいて、過去をきれいにして将来3～5年を見た議論となっているが、20年後の競輪がどうなっているかが見えにくい。民間は20年後のビジョンがあって、将来が見えると参入したいと考えるものである。また、将来像が見えていないとモニタリングもできない。
- 課題もあるがポテンシャルはあると思う。自分がオーナーとして取り組むことを考えるとかなりチャレンジングだと思うが、このためには民間の力があつた方が良くと思う。競馬や競艇と比べて、競輪は全体としてサイクルスポーツ、環境に良い面という違いを売り出し、ギャンブル性を薄くするなどのイメージを変えていくことも考えられないか。
- ギャンブルと自転車競技の両輪を回していくことが重要である。競技としての面白みはわかるが、ギャンブルとしての面白みはわからない。ギャンブルとしての面白みを出して欲しい。競輪最高会議は、経営全般を意思決定の範囲とすべき。競輪場をコストセンターではなく、プロフィットセンター化していくための提案を競輪最高会議で行うべき。
- 地域活性化の観点では、玉野市でヘルスツーリズムの実証事業を行う中で、競輪場を活用して、競輪場に来て運動してもらい競輪選手と交流をしてもらっている。競輪は地方創生に貢献するという意思をもって取り組み、そういうこともモニタリングしていけば良い。
- トップの仕事は決断。競輪最高会議としての意思が一番大切であり、覚悟・決意が必要。競輪最高会議メンバーが85億の予算をどこに使っていくのかという点で責任と権限が見えてくる。今後、その結果を数字で見せて欲しい。
- 現在、依存症対策基本法案が審議されており、依存症対策にかかる費用について、JKAの交付金で充当できないかという議論もあつたが、システム改修など多額の経費がかかる中であっても、依存症対策を着実に実施できる環境整備をしてほしい。また、法改正が遅れた場合、今回の議論を改めて見直すことになるのか教えて頂きたい。
- 新しいアイデアを拾い、実行していくことは勿論のことだが、それを部署外の関係者に周

知していくことが大切。前回、横のつながりの難しさについての話はあったが、横だけでなく縦においても決定事項や課題を早く共有できるような形をつくるのが大切ではないか。また、先導的施行者の取組が重要。

- 売上を上げるという量的拡大を目指してきたが、ようやく売上が下げ止まっている。この間にスポーツ性を重視する等の質的拡大への転換が必要。競輪は人力の限界スピードが出せるにも関わらず映像やネットでは表現されていない。競輪界には大きなビジョンが必要であるとともに、自治体と民間が一緒になって取り組んでいくことが必要。

※なお、本議事要旨については、速報性の観点から発言者の確認は取れておらず、後日発言者の確認が取れたものを議事録として掲載する予定である旨申し添えます。

お問い合わせ先

製造産業局 車両室

電話：03-3501-1694

FAX：03-3501-6731